

第1回 外国人児童生徒支援研修会

5月29日(木)に、外国人児童生徒支援研修会を開催しました。本研修会は、令和7年度に初めて外国人児童生徒が入学・転学する学校で受け入れ体制に関わる教員、小中学校教員・管理職(希望者)を対象としたものです。第1回目は、東部教育事務所 指導主事 中島毅先生を講師にお招きしました。

指導講話・質疑応答を通して多くの学びがありました。その一部をご紹介します。

【受入れ体制づくり】

受入れ前の準備

外国人児童生徒等教育担当者を校務分掌に位置付ける。担当者を中心に、養護教諭、学年主任、学級担任、外国人相談員、日本語指導担当教員等が、それぞれの役割でできることを探り、連携して支援体制を整える。

学校生活の説明

私たちにとっては当たり前のことでも、児童生徒・保護者にとっては知らないことばかり。(例)授業中トイレに行くときは、先生に一言伝える。
→様々なことは一度には覚えられない。少しずつ理解できるようにも実践していくことが大切。

【外国人児童生徒等教育の課題】

文化間移動

学校と家庭という異なる文化の間を行き来する中で、児童生徒が感じている戸惑いや不安を想像する。母語で身に付けた学力を日本語で発揮できず辛い思いをしている子もいる。自分のアイデンティティに悩む子もいる。
→温かく接してくれる人間関係の存在が、児童生徒にとって大きな支えになる。

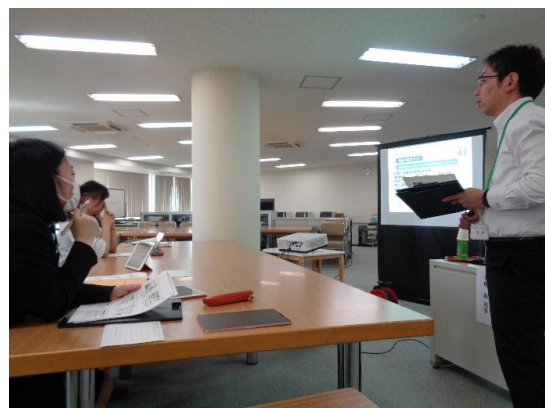
生活言語と学習言語との違い

(例)「温める」「冷たくなる」といった日常生活の言葉は知っていても「熱する」「冷却される」など理科の授業で扱う言葉を知らないこともある。日常会話の力と学習で求められる言葉の力は異なる。
→取り出し指導の際に学習言語の予習を行うことで、在籍教室での学びに参加しやすい。

【外国人児童生徒等教育の計画と実施】

面談・進路指導

来日した段階で、中学校卒業後の進路の希望を共有する。将来どうしたいと考えているのか、本人と家族の考えを十分に聞くことが大切。
→進路指導の際は、高校に進学後に受けられる支援についての情報も提供できるとなおよい。



指導講話



グループワーク

加えて、文部科学省の動画コンテンツ等、参考となる資料も紹介していただき、有意義な学びの場となりました。

次回（第2回目）は、2月25日（水）を予定しております。開催の案内は11月頃に改めて行います。

受講者の感想

小学校の先生方の努力があって、中学校で生徒たちが周囲の仲間とうまくやっているのだなと実感した。大変勉強になった。ありがとうございました。
日常生活では会話にあまり困難を感じていないので、日本語指導が必要ないのではと思うこともあった。しかし、今後学習言語での困難が生じるかもしれないということを今日の研修で学んだ。将来的にその子がどうしたいのか進路も考えながら支援していきたいと思った。ありがとうございました。
研修の内容もですが、教員の繋がりもできてよかった。ありがとうございました。
断片的な知識でやっていたので、情報の得方等が分かったのがよかった。他の学校の様子が分かってよかった。ありがとうございました。
具体的な事例の説明があったり、実際にタブレットを使って研修動画を確認したり他の学校の人とそれぞれの学校の様子について交流することができ、自分の勉強不足について改めて知ることができた。ありがとうございました。
今まで日本語指導、支援を要する児童の対応が未経験だったので、大変勉強になった。児童が日本に永住するのか、帰国するのかによっても指導支援が違ったり、個々の実態によってかなり対応も変わってきたりするのではないかと感じた。
外国人児童への指導について、他校の様子を知ることができ有意義な研修となった。しかしながら外国人児童への指導を誰が、どの時間に行うかというところが難しい点なので、学校全体で体制を整えていきたいと思った。